会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和元年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」Ⅰ．教職員の資質能力向上の推進　（ⅱ）教職員研修プログラムの構築事業 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回事業推進委員会 |
| 開催日時 | 令和元年10月8日（火）14:00～17:00 |
| 場所 | 品川プリンスホテルNタワー　N1 |
| 出席者 | 1.委員：大城圭永、佐藤昭宏、加藤猛、山根大介、泉田優、植上一希、　　　　高岡信吾2.請負業者：飯塚正成 |
| 議題等 | 1.ICT活用研修WG進捗確認（山根・加藤）　ICT活用研修について* ICT活用研修は、9月19・20日に京都YICで実施した。
* IDの学習は、学校により取り組みが違うので、周知が難しい。
* 事前学習に基づく指導案の作成は、動画で詳しく説明する必要がある。
* 動画教材の質を確認するためのチェックリストの内容と講座内容の連動を明確にする必要がある。
* 動画教材をブラッシュアップする過程のグループワークに再度検討の余地がある。
* 動画教材の活用に必要な環境について特定する必要がある。
* 同時に何名もが撮影するため、教室の確保・携帯について検討する必要がある。

　ICT活用研修講師養成研修について・受講者が提出する指導案シートに対する指導内容について、その視点や論点を確認するためのWGの設計が必要。・イレギュラーな質問に対応するためのQ &Aが必要。・講師は、適切な授業の進め方ができ、受講生が自分で考えを深めていく手助けすることを目的とする。2.学習評価研修WG進捗確認（植上・佐藤）基礎編の開発について・高知では診断的評価をワークのテーマとし、岡山では非認知能力の評価をワークのテーマとした。結果として、岡山で行った研修の方がより効果が高かった。・冊子形式の教材を作るよりもPPTをそのまま教材とした方が、利便性も教育効果も高い。・補助教材等については、作り直す必要があると考えている。・e-learning等の併用について検討したい。応用編の開発について・現状の調査結果から、学校間の方針格差や教育の取組等について大きな差がある。この部分については更に調査していく。・非認知能力にアプローチするのは専門学校教育にとっての重要なポイントであると考えている。・ルーブリック評価の認知は現在低いと考えている。こういった観点は必要となるので是非盛り込んでいきたい。・学習評価研修の開発は、本年度の事業が終了しても更に継続して検討していく必要がある。 |

以上